常磐毎日新聞

日刊

夕刊　五月廿八日發行

定價 [illegible]
發行兼編輯人 [illegible]
印刷人 [illegible]
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

印刷物の
御用命は
常磐毎日へ！
電話六三〇

蔓延の兆あり　市役所から
防疫の赤信號
梅雨期が接近して
傳染病の恐怖が話題

梅雨期が接近してそろ／＼傳染病の恐怖が話題に上りはじめた今日この頃平市では〃今後蔓延の兆あり〃の赤信號を掲げて防疫の警鐘を亂打する一方左の如き豫防法を一般市民に徹底せしめ銃後健康報國の實を擧げることになつたが現在の患者數は腸チフス九、赤痢一、發疹チフス一、猩紅熱一四、ヂフテリア三〇、合計五十五名でいづれも經過は良好であるが四名程死亡してゐるから安心が出來ない

一傳染病流行地には可成出入を避け其の地に於ける飲食物に注意すること

一春季淸潔法未施行者あらば必ず施行すること

一手汲井戸、堀拔井戸には覆蓋を設くること

一果實、魚貝類、其の他の生物又は不良の飲食物に注意し努めて煮沸したる後飲食すること

一食器類の煮沸肌着の洗濯寢具の日光消毒等を勵行し特に手を淸潔にすること

一惡寒發熱を感じ下痢嘔吐を催したるときは直に醫師の診察を受くること

一患者發生の場合病院收容迄の間看護者は患者及其の衣類等に接する都度手の消毒を行ひ汚物布片等は一定の場所に置き散亂せさる樣注意し必ず消毒を行ふこと

一塵芥類廢物等は一定の容器に收め空地溝渠河川道路に投棄せざること

郷土色の豊かな慰問袋を前線へ
來月三日頃に發送

既報前線で活躍してゐる關係將士に慰問袋を贈る爲め過般來調製中の平市銃後奉公會ではこの程總べての準備もなつたので六月一日午前八時から兩縣社で武運長久祈願祭を執行、その御神符を同封三日頃發送することになつたがこんどの慰問袋には古雜誌や市內各小學校兒童の作文、成績品それに地方の新聞等も入つてゐることとてこの郷土色豊かな慰問袋は喜ばれるであらうと期待される

雨傘を百本

小名濱町古港小野三五衛氏はこの程同町小學校へ雨傘百本を寄附した

◁▷◁▷◁▷◁▷

火薬類の貯藏
平署が狀況を取締

平署では最近管下の火薬取扱高が著るしく增加した結果各所に事故が頻發するので二十七日署員を動員して一齊に火薬の取締りを行つたが所定の場所に貯藏しないものが二三件あつたのみで惡質違反は一件もなかつた、然しこれが取締は今後も引續き嚴重に行ふことになつてゐる

平郷軍へ御下賜金

有難き思召しに依り滿洲事變の論功行賞とし全國在郷軍人分會に御下賜金の傳達あり平市聯合分會にも三百四十圓を下賜さる

天候が急變
初雷とゝもに雹がバラ／＼

平市地方は本廿八日午後一時廿分頃から天候が急變して初雷が響き渡り突然雹交りの猛雨を降らしたが午後二時十分頃から小止みになつた右の降雹に關し神谷農事試驗分場の談に依ると可成り大きな雹を降らしたが一二分間で時間が短いから桑葉其他農作物の被害は極めて少なからうとの事である

喜の華會寄附

既報過般三曲演奏會を催した平市の喜乃華會ではこの程純益金のうちから十圓を市銃後奉公會に寄附した

氣象觀測
各所に增設

中央氣象臺小名濱測候所では管下濱三郡の氣象觀測に萬全を期すべく從來の氣象觀測所八ケ所のほか今度新に双葉郡川內村と本郡川前村の二ケ所に增設また雨量觀測所も双葉郡浪江町と本郡植田町の二ケ所に新設することになり目下所員がそれ／＼派遣機械の据付をなしてゐる

白砂の上に黑煙を吐く
漁港鐵道の驛舍
既に竣工近し

既報遲くも六月下旬には開通することになつた小名濱漁港鐵道の終點、小名濱驛の驛舍も八分通り竣工し目下內外のお飾りに餘念がないが同驛は元內務省築港事務所附近、吉田屋旅館前に新設されたもので萬里の波濤が近くまで押し寄せ殊に白砂の上にグツト延びた二本の軌道の上をポツ／＼と黑煙吐いて列車の運轉される有樣は都會人でも物珍らしい事だらうと街の人々語り合つてゐる

◆◆◆◆◆◆

高橋龜松氏が
郷軍へ三百圓
指導員の慰勞費に

平市白銀町市議高橋龜松氏は未入營補充兵の敎育に盡力してゐる指導員を犒つて貰ひたいと金三百圓を郷軍平市聯合分會に寄附して來たので關係者一同感激この內百圓を指導員の慰勞金とし殘り二百圓は基本金に積立てることになつた

★★★★★★

學童等相寄り
軍馬慰問の會

上遠野村小學校では海軍記念日のきのふ「軍馬慰問の會」を催した、先づ兒童の愛馬進軍歌に前線で活躍して赫々たる武勳をたてゝ來た無言の戰士〇〇頭を迎へ校長其他來賓の謝辭あつて子供逹の手になるいろ／＼なものを御馳走し終つて愛馬行進曲にあはせ村內を行進閉會したが地方では稀しい催しだけに頗る好評を博した

小名濱
上水道
新裝置施設

小名濱町上水道は上遠野村瀧地內に取入れる鮫川用水を導水するものだがこの程鮫川疏水組合と折衝五里の用水路と汚物混入防止の裝置を施すことになつた

小名濱支局通信

兵隊の心境

支局長　小野務平

出征者大槻金吾君は平市中町警察署橫通りで建具屋さんを營んで居た、留守宅には老母と病める姉と妻そして二人の幼兒の外に四月下旬產んだ許りの赤兒がある、唯一の米櫃を失つても其留守宅は健氣なる銃後の護りが確い、應召後海南島に上陸して當時通信があつたか其後杳として無音なく久し振りで左の通信があつた、左記に掲げて見よう。

拜啓永々御無沙汰致し誠に申譯けありません私事海南島上陸以來早くも半歲が流れました其間、廣東の西に東に轉戰し今は南の外れ〇〇に敵陣を睨んで居ります、廣西に上陸した時は寒さにふるいて寢める事も出來ぬと云ふつらい事も屢々あり、故郷に居つて支局長（小野）と將棋を指して居る樣な樂なわけにはまいりません實は敵ながら感心する樣な事も幾度もありまして、〇〇〇が銃を以て戰ふのには少々驚きました

それで私も處々万々の戰鬪にも參加し幾度か敵彈雨下の下を通つた事もありますが今から考へると能くマアー存命が出來たものだと神佛の加護の厚きによる事として感謝して居ります、ですからいざ進軍の命令が降つては總てを忘れ唯腦裡に浮ぶものは國を出發の時の皆々樣の熱烈なる身送りと力强い銃後の應援のみです

僕の向ひの小野君が戰死した事を聞きましてお氣の毒に存じますが私共も亦何時戰死するかは判りませんが何時でも笑つて死んで行くだけの餘裕があります、遲くなつて濟みませんまた後でゆつくり書いて御通信致します

御元氣で

と云ふのであるが、硝煙彈雨の中に將棋を指した故郷の閑日月を考へる樣な餘裕を示すなど敬服の外がない、然し既に君國に捧げたこの生命は何時戰死しても差支ないと空嘯いて居る處は大槻君に依つて初めて聞き居た、こ兵隊の心境であつた、この死は鴻毛の輕きを置いてこそ初めて日本男兒の無敵な活動が出來得るものだと頷き得るのであつて殊に此欄を埋めた次第である。

▼後九、〇〇　郷土だより「大陸將士に贈る」

マイクを通して
聖地の感激放送
縣下兒童代表の一人
平第二校の市原さん

平第二小學校六年生三組市原惠子さんは明二十九日仙臺放送局から午後六時の子供の時間綴方發表會に「聖地をめぐりて」を放送するが惠子さんは市內揚掘小路市原仲二氏の長女で過般福島民友新聞社が催した縣下代表兒童聖地參拜團の一人に選ばれ聖地をめぐつて來た榮譽を擔つて居る

平局古雜誌

平郵便局では市の廢品回收運動に呼應し局員から古雜誌を集めたが百餘冊集まつたので早速銃後奉公會に寄附した

阿彌陀堂の一
願成寺を再建
信徒から二萬五千圓

內郷村大字白水の國寶阿彌陀堂の別當願成寺は本年一月炎上したが全縣下の信徒から寄附を仰ぎ大体二萬五千圓で本堂と庫裡を再建することになりこの程その筋に寄附の募集許可方を申請した

落磐で瀕死

磐崎村小野田炭礦後山婦佐藤幸吉氏三女クニ子（二）さんは二十七日午後一時頃同礦第三斜坑內で作業中落磐のため頭部及び胸部に瀕死の重傷を負つた

篠山廉氏
好個の良著
『大陸の旅』出版

今度磐城文化協會から篠山廉氏著の『大陸の旅』が出版された、著者は人も知る平第一小學校の校長流石は本縣敎育界の重鎭的立場を築きあげた斯界の苦勞人である丈に銳利な觀察眼と卓拔の批判、然も事物に對する不滅の情熱は、よく大陸の實態を捉へて完膚なく讀者をして大陸を往かしむる感深きを覺えせしめて興趣が盡きない、殊に全篇を通じて見免せない點は視察の重任を背負つて大陸の奧深い懷ろに突入し勃然と湧起する一種の感慨、夫れがなだらかな行文に飛躍的な輝きを帶ばしめてゐる事と、明け暮れの淡い旅愁に似た情緒が郷國と大陸を結び磐城の地方色で隨處を塗り上げた親し味である、裝釘また瀟洒、而も數枚の口繪は貴重な土產の一つである

四六判百頁、定價送料共一圓、發賣元平市四丁目マルトモ書店

少年賊
植田署逮捕

植田署では二十六日夜錦町呉羽紡績の寄宿舍に忍び入り衣類その他四十圓分を掻拂つた少年犯人米澤市矢來町生れ目下住居不定小松元一（一八）假名を二十七日朝植田町地內を徘徊中逮捕した同人は去る八日同寄宿舍に押入り現金二十圓その他を盜んだが起訴猶豫となり本籍地へ送還中郡山から逆戾り再び惡事を働いたものである

半島人が
節約献金

湯本町入山炭礦第二西寮內半島人坑夫炭成三郎こと朴癸山さんは日頃の酒や煙草代を節約して得た金ですがと今二十八日金十圓を恤兵献金として平署に寄託關係者を感激せしめた

鶴ハシで
突刺し重傷
坑夫の喧嘩

湯本町入山炭礦採炭夫田中一（三六）は去る二十二日坑內で作業中仕事のことから同僚山梨五郎（二六）君と喧嘩をはじめ手にしてゐたツルハシで同人の大腿部を突刺し全治十日間の傷害を負はせたこと發覺、この程平署に檢擧された

關西の旅へ
磐女旅行團通信

私共は憧れの西京の旅に上ります、遠い旅と夢の西京とが私共の胸に豊かな詩情あふれさせる、匆來の濱は美しい、まだ故郷の一部なのにもう私達に旅情をわき立たせる。左手の白砂靑松の間にも海岸工場の四角な近代建築が散在してゐる。筑波山の峰の秀れた姿が薄らかにかゝつた霞の中に見える。これから武藏野の廣々とした畑が見えて田に水が引かれて居る點々と散在する農夫達は手に手に柄の長い農具を持つて居る、たま／＼私達の列車に答へて手を上げて下さる人も居る。長塚節の歌はこゝで生れ無限の詩情をわかせたのだ、『土』はこの農夫の姿である。やがて汽車は煤煙にくぶる街を見せて國都大都市に近ずく――（東京驛前花月にて）――

平市人事

[illegible]

△杉平二〇澁谷榮次郎氏四女君代さん

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間　連作童話劇「僕と私の銃後日記」（五月の巻）高石成雄外

▼後六、二五　講演「米食の歷史」柳田國男

▼後七、二〇　郷土に寄する言葉（錄音）內村兵藏

▼後七、三〇　國民歌謠

▼後七、四〇　管絃樂「イタリアの印象」日本放送交響樂團（指揮）山田耕作

▼後八、一〇　五月に拾ふ（錄音）

▼後八、二〇　靑年の時間　陸軍步兵少佐秋山邦雄外

▼後九、〇〇　舞臺劇「芦刈」花柳章太郎外

明日の部

▼前一〇、二〇　家庭の時間「魚の一尾買ひと無駄のない料理法」筒井政行

▼前一一、〇〇　小學生の時間（尋三）綴方リレー「遠足」仙臺市本町通尋常小學校古賀邦彦外

▼後〇、〇五　琵琶

▼後二、〇〇　小學生の時間（高等科）「樂器の解說と鑑賞」チエロとコントラバス中川牧三

▼後三、〇〇　婦人の時間「生活と信仰」川村理助

▼後三、三〇　敎師の時間綴方リレー（遠足の講評）四原慶一

▼後五、三〇　中等學生の時間「スパイ戰の話」佐野昌一

▼後六、〇〇　子供の時間綴方發表會「聖地をめぐりて」平市平第二小學校市原惠子

▼後六、二五　講演「時局と食糧生產地としての宮城縣」縣知事林信夫

▼後七、二〇　郷土に寄する言葉（錄音）洋畫家田口省吾

▼後七、三〇　國民歌謠

▼後七、四〇　講演「時局下の貿易政策に就いて」川島信太郎

▼後八、〇〇　講談「谷風と長吉」一龍齋貞山

洋酒と喫茶
醉人のサービス
氣分本位の店
タヒラ・ギンザ通り
グリル　バツカス
電七〇二番

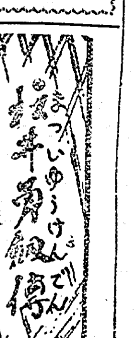
…お買物なら
舶來品豊富な…
平市田町
銀座通り
玉屋洋品店
電話六五六番

大陸の旅
平第一小學校長
篠山廉著
四六判百頁・寫眞十數葉入・
美裝本・定價一圓（送料共）
本書は、平第一小學校長篠山廉氏が昨年秋福島縣敎育會の大陸視察團一行に加はつて約一ヶ月に亘り鮮・滿・支の各地方を視察した際の見聞記を纒めたものである。著者は敎育家の立場から彼地の實相、人情風俗、習慣等に深き觀察と銳き批判を加へ然も豊かな文藻と明快な行文は、興亞建設下の大陸事情の一班を正しく認識するに絕好の書である。紅湖の必讀を俟つ。
發行所　平市田町一七　磐城文化協會
發賣所　平市四丁目角　マルトモ書店

皇紀二千六百年の
輝やかしい端午の節句を
勇ましい武者人形
よろひ・兜・鯉幟で
御祝いたしませう
……各種取揃ました……
五月人形
金太郎玩具店
平市三丁目二

喜多流謠曲と仕舞の
お稽古をお奬め致します
入會隨時
喜多流　謠曲　仕舞
白土會
平市田町六九
電話一二七番

五月人形
尙武日本に
尙武節句
皇紀二千六百年を紀念する
▽勇ましい武者人形
▽鯉のぼり
▽甲冑類
―各種御道具豊富取揃へました―
スガノヤ提灯店
平市四丁目・電話九五番


松井勇劍傳
まついゆうけんでん

第八十四回

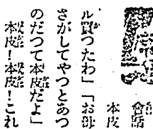
師匠に對し一言

此の金井半兵衛、先には大阪表の[illegible]の[illegible]に推されましたが正雪の謀叛露顯するに及んで此の人は切腹して相果てました。

此の由比正雪の[illegible]を受けて[illegible]外へ參る途中、前の[illegible]にて白[illegible]八幡の[illegible]木に試し斬りが出ると聞いて如何なるものが出るか試してやろふと[illegible]の中より來てみたが、何うしたのか一向に出る[illegible]がない。そのうちに眠くなつたので白[illegible]八幡の御前を[illegible]して眠つてしまつたうちに松井民次郎に先に[illegible]られてしまつて[illegible]に[illegible]べた[illegible]になつたのでございます。

[illegible]が分つて[illegible]大いに笑ひ、半『[illegible]狗と云ふからは今少し強い奴が出ると思つて居たが、案外[illegible]い[illegible]狗で[illegible]か[illegible]合ひ拔け致したが、[illegible]の如き[illegible]にお[illegible]ひ[illegible]したのは何よりの本懐でござつた』民『イヤ、手前も[illegible]名なる金井先生にお目にかゝり本懐でござります……』半『して松井氏にはこれより何れへお出でになられる』民『ハイ、未だ行先は定かならねど[illegible]か[illegible]ねる人あつて江戸表へ……』半『[illegible]ねる人とは誰方でござる……』民『尋ぬるといふは[illegible]兄[illegible]兵衛の[illegible]にして[illegible]の高[illegible]九郎兵衛』と言はんとしたが[illegible]の老けた高[illegible]九郎兵衛何う云ふ所から金井半兵衛と入魂に致して居るやらも知れん、正か左樣な事をする人とも思はれないが、九郎兵衛を[illegible]ねて居る事でも通知されてはならんと思つたから『聊か親類の者を[illegible]ね出し度いと存じ入れんければならん事がありまして』、半『あゝ左樣でござるか、江戸へお出になりましたら、[illegible]牛込[illegible]町に武藝の道場を開き居りまする、由井[illegible]正雪と申すは[illegible]の師匠、[illegible]は十八歳、心に[illegible]んで居りますゆゑ、お[illegible]ね下され、[illegible]と[illegible]を……』

[illegible]八幡の御門にて[illegible]いたしたと申し下されば[illegible]か[illegible]ぶ事でござらう、是非お[illegible]ね下されたい』民『[illegible]ふござる。必ずお立寄り申すでござらう』して金井先生にはこれより何れへ[illegible]られます』半『手前はこれより師匠の用事にて秋田の[illegible]下まで[illegible]る』とのみでこれも[illegible]かに[illegible]はない。民『然らばお名殘惜しけれどこれにてお別れ申す。存外の失[illegible]お許し下されたく』半『[illegible]に失[illegible]仕まつゝた』と半兵衛は秋田をさして行く。跡で民次郎も此の場を立去らんと致しましたが、考へて見れば此の[illegible]人の[illegible]天狗を[illegible]しては此の[illegible]又も[illegible]行に出て、百姓町人共を苦しめんとも限らないと民次郎『コレ、[illegible]天狗共』と呼ばれて今[illegible]剛士[illegible]の[illegible]を見て[illegible]れ入つて參りました大[illegible]三五郎、角田孫太郎の[illegible]人『へへツ』民『[illegible]方共は夜な夜な通行に出て、罪なき町人や百姓共を[illegible]と[illegible]に及ぶとは怪しからん[illegible]、[illegible]其方共は何れの何者ぢや』問はれて角田孫太郎頭を下げ孫『何うもヘヤ恐れ入つた[illegible]で何とも[illegible]ございません。何うか主人の名前だけは御免下されたく、我等[illegible]人は此の西郷の附近に[illegible]を開いて居りまする小野田作之進方へ內弟子として[illegible]つて居ります者で、手前は角田孫太郎、此の[illegible]は大[illegible]三五郎と申す者でございまする。[illegible]人とも未熟ながら師匠より目錄まで頂戴いたしましたが未だ人を[illegible]に斬つた事がございません。[illegible]の腕前を試すには人を斬つて見なければ分らぬと武藝[illegible]のため[illegible]い事と知りつゝ二三人を[illegible]つけましたので何うか[illegible]下されたい』民『如何に武[illegible]のためとは云へ罪なき[illegible]を[illegible]ゝ殺[illegible]いたすなどゝは怪しからん事、武藝は進んで人を斬るものではなく、身を守るが[illegible]である。それしきの事は知らぬとは言はれまい、[illegible]の[illegible]といはれて[illegible]事あると[illegible]ふか一[illegible]方の[illegible]小野田氏とやらまで申し入れて置く、これから案內さつしやい』孫『何うかそれは[illegible]』



ランドセルの闇

大沼英子

小學一年生の會話…「あたし本皮のランドセル買つたわ」「お母さんが方々さがしてやつとあつたの」「僕のだつて本皮だよ」等・等。本皮！本皮！本皮！これが今年の子供等が、ランドセルにもつ關心なのだ。

…ランドセルの暗取引をする惡德商人にくむべしだが、こんなに本皮を、本皮を…と、ないものゝ後を追かけてゐるのでは暗取引になるのも無理はない。スフの弱さにあきれかへつて、どんなに高くても純綿に如くはなしといふ考へが、このランドセルにも現はれてゐるのだ。全く一年使へるか、二年保つかといふやうな代用品を、相當高い價で買ふより、倍額又はそれ以上出しても、六年間安心して使へる方が經濟でよい。子供等が本皮だと自分のもち物にほこりを感じることには、十分に批判の餘地はあるが、とにかく今までは、代用品をもつことに、肩身のせまい思ひをするといふ、およそ國策とは反對の結果にない。

…そこで國策としては、強い代用品を作つて[illegible]ことである、代用品の信用、代用品の名譽回復をこの際しなければ、もう國策の名によつて弱いものを使ふことにはコリ／＼である。これ以上不良代用品をおしつけられると、つひに消費者は精神的にも、その日主義に墮してしまふ。暗は罰すべしだが、この國民の精神力の低下の方が恐ろしい。

…小ばなし…

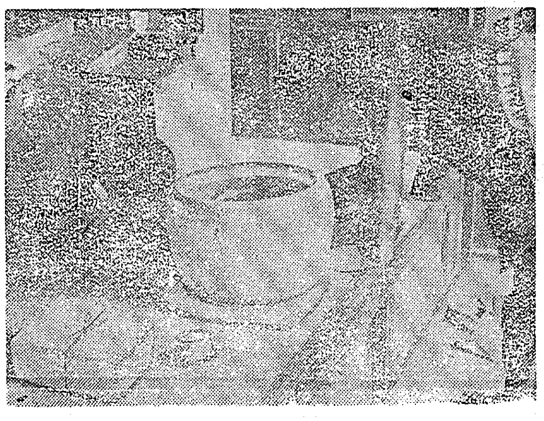
水の不足について、水道を節約してくれと係の者が注意して廻つたところ

「私共だけは大丈夫です」「どうして」「親子水入らずの家庭です」

…社交の再檢討…

人間は本來が社交的な動物で、清い社交はこの世の花園です。それなのに、往々にして、たのしかるべき社交が義理づきあひとなり、かへつて、苦痛を感ずる場合があります。聖戰第四年、生活改善には、何よりの好機ですからこの際社交の美名の下に行はれてゐる虚禮を徹底的に廢止したいものです以下は作禮新興生活館が提唱するもので、「良俗絶やさず、簡素な社交」への上陸第一歩です。その是非をご檢討下さい

よくもこんなに無駄があるもの



◇宴會の簡易化

宴會はできるだけ簡潔へ、止むを得ない場合でも、會費はなるべく一圓以內でことたりるやうにしませう

◇贈答の改善

盆暮は一切廢止し、お歳暮や祝ひ、その他の形式的な贈り物 そしてその返しなど全廢しませう、こんなことでドノくらゐ無理をなすつてゐるご家庭があるかしれませんから

◇來客接待法の改善

特別の場合のほか菓子、果物、食事などは一切出さないやうにしませう、物のたりないこのごろはなほさらです

◇獻酬廢止

保健の上からばかりでなく、全國的に見ると、杯交換のために杯洗に流し去る酒の無駄は、ばくだいなものにちがひありません

◇通信の改善

手紙のやりとりはなるべくハガキを用ひ、旅行中は年賀、吊や暑中見舞など全廢しませう、こんなしきたり意味な

◇訪問の改善

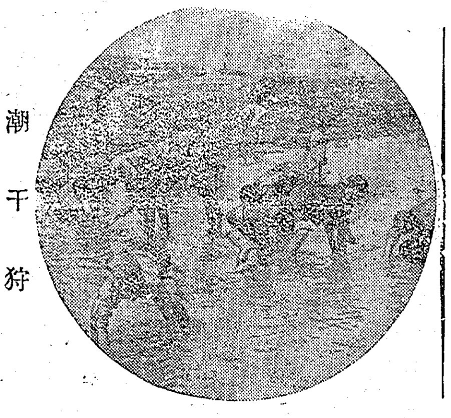
訪問の際はなるべく先方と時間を打合せ、手土産など一切止めたいものです、持參しなければ氣がひけても

◇贈答品包裝の改善

贈答品の包紙は白紙とし、のしに[illegible]にしませう

◇長尻禁物

食事時間をねらつて訪問する人もないでせうが、つい長尻をして、食事の心配をかけるといふことは慎みたいもの、相手の迷惑だけでなくその人の時間の不經濟でもあります


潮干狩

[illegible]目の若返法　無料進呈

目の廻りの醜い小ジワ、ウス黑いシミで困つてゐる人、眸の細い人、目緣が惡く、上り眼、下り眼、怒り目の人、目がすぐ疲れて血走りカスム人、眼質が弱く近視亂視、斜視タダレ目に惱む人、お目の美を望む人に

この良法を知らせたい！

この強力美化ホルモンと理學的療法の綜合効果で目がパッチリと若返り、眼病が短期間で快癒する小ジワやシミがキレイにとれ、人も羨む美眼の持主となつたお方が澤山で、醫界、美容界、映畫演藝界でも評判です。ハガキで左記へ申込めば療法讀本無代進呈します。

東京銀座西二丁目五番地　理化學美容研究所

これではいけない

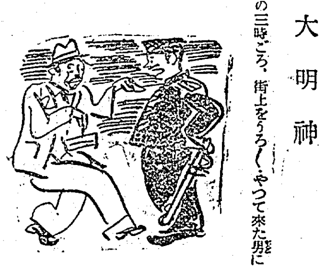
本を讀む子ら

子供が本でもよんでゐると、たいていのお母さんは「うちの子は本がすきでね……」と自慢氣におつしやいます、けれど、棒キレでもふりまはしてゐると」何にしろ亂暴なばかりでして……」と眉をひそめていふのが一般です、讀書は決してわるくはありません、しかし讀書ばかりしてゐるやうな子はやゝもすれば物事を「本」を通して見やうとする傾きが強く、これは特に都會の子供に多いやうですいはゆる「物知り坊や」ができてしまつて直接に眼で見、耳で聽き實際に手足をはたらかせて得た知識が少いのです、本をよむことは子供の生活のホンの一部分に過ぎず、大部分を占めてはいけないものです。物を見ること、物を愛すること、物を理解すること――かういふ態度は書物を通してのみ養はれてはいけないのです、本をよんでゐるのは他のどんなことよりも優れたことだ、といふ考へはぜひすてゝほしい、世の母親のうちには子供が喧嘩をしたり、あまり本をよまないのを見て、それこそ劣等兒でもあるかのやうになげきます、なぜ悲しむのですか？遊びは子供の生活です棒キレを振廻してゐる間に體も心も發育するのです

大明神

巡査（眞夜中の三時ごろ、街上をうろ／＼やつて來た男に）「こら／＼！この眞夜中になにしとるか？」

男（酔つてゐる）「いや、どうもエヘヘ、、、これから、お說敎をきゝに行くんでさア！」



汗疹や皮膚病は家庭溫泉で――

浴劑はいそだまがよい

これからは汗もの出る季節になりますが汗ものたくさん出來た時の不快さは格別で赤ちやんなどはそのために不眠症を起すことがあります。汗もは出來てしまつたらなかく治り難いものですから出來ぬる豫防にすることですが、豫防法としては、家庭風呂に「いそだま」といふ溫浴劑を少々入れることです。これは沃度分を多量に含んでゐるものですから驚くほど効きます、是非一度御試しになることです、（御代理店特約店を募集中ですから新聞名記入お申込み下さい見本紙代進呈の由）

海草からの主劑　家庭溫泉藥（賣藥部外品）

いそだま

健康の親！ 絶對の元！

生効（神經痛・痔疾・皮膚病・婦人病・子宮を得度い人に）

東京市荒川區尾久町八ノ四　いそだま本舗

人生の至樂に

家内中の者が一緒に物を食ふことは、人生至樂の一つです。が、たいてい主人は朝は忙しく食べてすぐ出かけ、晝は勤め先、學校などで別れわかれに食事をしますから、みんな一緒に食るのは夕ごはんです、そして、みんなを愉快にたべさせるのは主婦の才能と努力によるのですが、これも毎日のことゝて別に心にもとめず、いはんや主婦に感謝する家族など、どこにもゐないでせう、主人は晩酌が長く、團居は話が長く、幼い子供にもす

主婦のなげき

き嫌ひがあり、年上の男の子は勉強過勞で何もたべたがらない、などといふのが多く、それを一々叱つたり慰めたりしてたべさせる主婦の苦勞は、一と通りでありません、さしみをとつて待つてゐるのに歸らなかつたり、大雨の降つてゐる夜おさけが足りないから買つて來い、などといつて平氣、晩飯に主人の酒量を少くさせることが主婦の最大の苦勞なのだが、そこを[illegible]めた時の主人が察してやらないのは無理な話です

ものは工夫

よくも役立つたと驚くばかり

…時節柄、イスのカバーやクッションなど有合せの布を利用して作りませう、たとへば、古いお召の着物のよいところを取つてはぎ合せて作れば色どりもよく、雅趣のあるものができます

…それからイスの上のふとんは木綿縮の浴衣でも利用すれば面白く、また丸形のクッションには、古い帶、古い半襟を應用してもよく、夏の絽も冬物も配合よく組合せまるくぬい合せて三段とし、周りの接目には絹の打ひもをとぢつけませう

…そして、中には新モスで外側と同寸の袋をつくつてパンヤを入れ、この半襟のクッションをかぶせればよろしうございます

時局小說　驀進

（劇上演映畫化）

士別[illegible]樹 作
北野[illegible] 畫

第百五十七回

ある秘密（一）

好枝の病狀は矢張り一進一退であつた。[illegible]か險惡の狀態になつたが、[illegible]に持ち續けてゐるのであつた。

この病氣に限つて醫藥が極めて緩慢で、このまゝずつと快くなるのではないかと思ふことが屢々なのである。

然し身體の衰弱は日毎に加はつて、痛々しい程に細つてゐた。

醫者が危險狀態になつて一時は[illegible]缺勤してゐた馨吉も、何時までも休んでゐる譯にもいかず病人は馨子に托して近頃また出勤し始めてゐた。

もう初夏の候で、若葉が見渡す限り[illegible]つてゐる窓に凭れて馨子は久しぶりに懷かしい陽を身體一杯に浴びてゐた。

好枝は今日の[illegible]で一層蒼白い顔を[illegible]にしてスヤ／＼と眠つてゐる。

馨子は支那へ行く兄の出發が迫つてゐるので氣が氣でなかつた。馨吉としても明日をも知れぬ病態の妻を置いて行く譯にもゆかず、さうかと云つて若し今度の支那行を斷念すれば再び好機を迎へ得るとは思はれなかつた。出來ることなら馨吉を連れて行きたいと思ひ、一日延しに延してゐたのだが、色々な方面との關係もありこの上延引することは仕事の上に影響が生ずるかも知れない狀態になつた。もう後十日間の日數しか殘されてゐなかつた。

浩の身邊は急に忙しくなつてしまつて、馨子も氣が氣ではなかつたけれど、この頃の友な看護婦にばかり任せて置くのは不安で、とても出來さうもない。

馨子はふと好枝が呼んだやうな氣がしたので急いで病人の傍へ寄つて行つた。

「好枝さん、呼んだの」

馨子は優しく微笑して訊ねると

「えゝ、最後のお願ひよ」

それは殆ど聞きとれない位弱い聲であつた。

「まアいやな好枝さん」

馨子はさう云つて明るく笑つたが、好枝の今にも泣き出しさうな悲しげな表情に思はずハツとした。

「ね、馨子さん、この上我慢を[illegible]つて濟みませんけれど、私この[illegible]までは死に切れないことがあるのですの」

病人はそこまで云ふのにやつとらしく、暫らくは息をはずませヘア／＼と苦しさうに瞼をつぶつてしまつた。

（一體ひとは一體どんなことなのかしら）

馨子はやゝ不安になつてきた。息が鎭まると好枝は再び語を[illegible]いで

「私ね馨子さん、今迄誰にも[illegible]あなたに打明けやう／＼と思ひながら遂々今迄打明けることが出來なかつたことがあるのよ、けれど私はもう幾日も生きられないと思ふと、心殘りで心殘りで――」

好枝はそう云ふと、かすかに[illegible]をふるはせて泣き出した。涙が[illegible]れて頬を傳はつた。

馨子は急いでその涙を拭いてやりながら

「好枝さん、そんなに亢奮しては駄目よ、もつと靜かに、靜かに話してね」

病人はまた眼をつぶつてしまつたが暫らくすると

「馨子さんと一緒にゐるやうになつてから、もう幾年になるかしら、その間私は嘘をついたり、あなたにかくしたりしたことはなかつたと思ふの、それ程あなたを信じてゐたのよ」

「えゝ、それは判つてゐたわ、だから私だつて何でもあなたに打明けて相談してゐたわね」

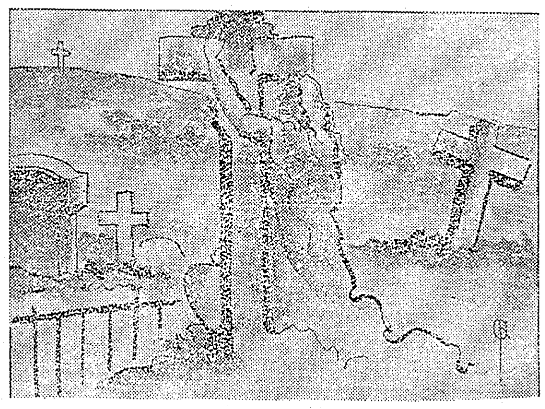
馨子も靜かに答へた。

「ところがねえ馨子さん、私あなたに只一つ一番大きなことをかくしてゐたのよ、苦しかつたわ、あなたに親切にされゝばされる程どんなに苦しかつたか知れないわ」

「一體どんなことなの」

「あのね、怒らないでね、私に六ツの子供が一人あるのよ」

「えツ、子供が――」



齒科口腔外科
レントゲン科
院長 東京齒科醫學士 原 精一
電話三一番　平市土橋通
原齒科醫院

株式先高必至
現物の買時
優良株御案内申上げます。
株式日報御申越次第御送付致します。
有價證券實物問屋
富岡株式店
平市四丁目（電話一九一番）

開院
外科一般　内臓外科
整形外科　肛門病科
性病科　レントゲン科
平市南町（平郵便局本局裏通り）
上田外科醫院
院長 上田耕作
電話一九二番

春夏の紳士服
羅紗界最高峰
Refinetex
リフアインテツクス
好評 本絹 大國［[illegible]］レインコート
姉妹品 純絹［チクマ］レインコート
大崎屋洋服店
平市銀座通　電96

フクジケン獨特の
▼とんかつ
▼特製燒かつ
福壽軒食堂
平驛前・電二八番

病室增築、手術室完備
醫學博士
産科婦人科 五十嵐雄二
平市新川町　電話三六九番

鈴木醫院
平市田町
電話六一三番

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下　電話六七四番

提灯と國旗

吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番
醫學士 吉田久雄

芳醇！ 美味！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

和文歐文 タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品
平市田町銀座街
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
藤森
電話三七〇番
振替仙臺五一〇番
（藤森事務用器商會）

華道會員募集
初心者を標準として專門研究者並に教授者の爲に華道に關する理論及技術の大要を確實に習得せしむ
敎授科目　生花、盛花投入、立華日本華道流儀 華道眞理、實地揷習解說、傳書講義
時間　每週日曜午前九時より正午迄 夜間部もあり
場所　平市田町五〇番地（市役所西 三光館横となり）
――尙御希望に應じ出張敎授致します――
池坊華道
先崎翠峰 敎授場

平病院（電六四一番）
平市警察署側（元共濟病院跡）
院主院長 醫學博士 鈴木定藏
内科 小兒科　院長 鈴木定藏
一般内科 外科 皮膚泌尿器科　副院長 高橋俊幸
レントゲン科 物理的療法科　部長 鈴木定藏
藥劑科　部長 吉本孝平
◎診療時間 每日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）
往診隨時
病室完備…入院隨時（自炊ノ便アリ）

鐵管代用
エタニツトパイプ

	耐壓封度	内經	一本ノ長サ	一本ノ價額	ギボルト繼手代
D級	250	50	3m	4.72	2.90
〃	250	75	3	6.97	3.50
B級	100	100	3	7.90	6.25
〃	100	150	4	17.70	9.20

平市仲町通り
山田文一商店
電話262番

「旨い」と一言（ヒトコト）にして盡く
神戸牛
すき燒
相始め申候
平市仲田町
日本料理 山茶荘（つばき）
電五二〇